

第 712 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議 題 —

BSN news ゆうなびスペシャル

やってきた死亡記録配達人～戦後、モンゴルに消えた命～

令和 7 年 11 月 27 日

BSN新潟放送

第 712 回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 令和 7 年 11 月 27 日(木)午前 11:00~

2. 開催場所 BSN新潟放送 6F会議室

3. 委員の出席

○ 委員側出席者 (敬称略・順不同)

委員長	馬 場 省 吾	副委員長	佐 藤 元
委 員	高 橋 信	委 員	大 橋 未来子
委 員	馬 場 幸 夫	委 員	石 坂 智惠美
委 員	三井田 由 香	委 員	太 田 勇 二

○ 審議番組事前レポート提出者

委 員	渡 邊 信 子
-----	---------

○ 放送事業者側出席者

取 締 役	小 湊 潤	(編成業務局担当役員)
取 締 役	島 田 讓	(報道制作局担当役員)

<説明員> 山 口 牧 恵 (報道制作局報道制作部)

事務局長	間瀬 学	(編成業務局長)
事 務 局	品 田 泰	(編成業務局テレビ編成部長)

4. 議 題

1 報告事項 令和 7 年 12 月の番組について(各担当)

2 審議番組 BSN news ゆうなびスペシャル
やってきた死亡記録配達人 ~戦後、モンゴルに消えた命~
(放送日時:令和 7 年 10 月 24 日 放送)

5. 議事の概要

島田社長が欠席のため、小湊取締役が挨拶。続き、「ゆうなびスペシャル「やってきた死亡記録配達人 ~戦後、モンゴルに消えた命~」についての審議が行われた(令和 7 年 10 月 24 日放送)

～番組審議委員の主な意見～

- 戦後 80 年の節目に、シベリア抑留に比べて知られてこなかった「モンゴル抑留」にスポットを当てたことは、非常に意義深い。
- 飢えや寒さ、過酷な労働環境など、想像を絶する事実を、映像や資料、地図を用いて丁寧に説明しており、理解が深まった。
- ジャーナリストの井手氏が、個人の活動として死亡記録をご遺族に届ける姿、その使命感に頭が下がる思いがした。「死亡記録配達人」というタイトルもインパクトがあった。
- 108 歳の帰還者・山田さんの「モンゴルは優しい国」という言葉や、100 歳の西倉さんの証言など、ご高齢の方々の貴重な声を記録できたことが番組の厚みにつながった。
- 本来は国が担うべき責任であることを、もう少し強く指摘しても良かったのではないか。
- 今のモンゴルの人々が、抑留者が建設した建物をどう受け止めているのか、現地の一般市民の声も聞きたかった。
- 祝日ではなく、平日・金曜の午前という放送時間は、多くの人に見てもらうにはハードルが高かったのではないか。
- CM の入り方や構成において、少し間延びしているように感じる部分があった。テンポを上げてドラマチックに見せる工夫もあれば、より引き込まれたかもしれない。

～新潟放送報道制作部 山口牧恵より～

貴重なご意見をいただきありがとうございました。井手さんの「生きた証」を伝える活動を知り、新潟にも多くの犠牲者がいるモンゴル抑留の事実を伝えたいとの思いで制作いたしました。

国の責任については、井手さんが身元確認作業で国の協力を得る必要があるため、強く批判する表現は避け、事実を淡々と伝えるに止めました。また現地のモンゴルの方々の声は是非欲しかったのですが、今回はモンゴルへの渡航取材が叶わず、系列局の映像素材を使用したため、教授以外のインタビューを盛り込むことができませんでした。

放送日時については、モンゴルで抑留者の捕虜管理庁の設立が決議された 10 月に放送することにこだわり、編成上の都合で 10/24(金)の放送となりました。

ご遺族の中には、そっとしておいて欲しいという方もいらっしゃいましたが、そのような方々の声なき声も丁寧に拾い、これからも戦争がもたらす悲劇を啓発していきたいと思います。

【文責:番組審議会事務局】